



## 仮説論文について

本誌に投稿される論文のなかには精神医学における仮説を論じるものが少なからずあるように思う。そのなかで展開される臨床上の観察や思索に基づく物語性のある記述を拝読して、著者も疾患概念の解釈についての洞察や独創性のある着想に面白みを感じた経験がある。その一方で、そうした仮説的な論文で採択に至るものが少ないのは残念なことである。

かなり以前の経験であるが、自身は1997年のスタンリー・プルシナーのノーベル生理学・医学賞の受賞記念講演を聴講した経験がある。受賞者は若き日にクロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)の患者を診察し、その原因について疑問をもったことから出発し、その原因となる新規の蛋白質を見出してプリオンの存在を発表したが<sup>1)</sup>、提唱したプリオン仮説は周囲からの批判を浴びることになった。そのようななかでも信念をもってプリオン病の研究を続け、CJDにとどまらず、動物のBSEやスクレイピーの原因としてプリオンが同定されていく経緯を述べていた。話を聴きながら医学的仮説を立てて、その正しさが一つひとつ実証されていく好例ではないかと感じた。

ここでは採用される仮説と採用されない仮説の違いはなにか？ について（私見ではあるが）少し考えてみたい。

『Medical Hypotheses』という医学的仮説を集めた学術雑誌があり、1975年に創刊され、従来の科学的枠組みにとらわれず、創造的・理論的な仮説を提示する場として他誌にはない特徴がある。創刊者の言葉として、“Medical Hypotheses will publish papers which describe theories, ideas which have a great deal of observational support and some hypotheses where experimental support is yet fragmentary.”とあり、仮説ではあるが論文として筋の通った内容であることが求められている。ただ当初は査読体制が取られておらず、編集者が「理論として面白いかどうか」で論文の採否を判断していた。そのなかで2009年に同誌に発表されたHIVを否定する論文が大きな社会的反響を招き、編集長の交代を余儀なくされ、査読制度の導入という対応をとっている。

仮説(hypothesis)の原義は「仮の説」ではなく、hypo

(ὑπό) = 「下に」「基礎として」 + thesis (θέσις) = 「置くこと」、すなわち「基礎の上に置かれたもの」であり、前提となり出発点となる命題や考え方でもある。実証されていない段階のものであるが、将来の発展を予感しうるのが望ましい。

論文として採択される仮説とは、単なる思いつきや主観的体験にとどまらず、十分な参考文献の引用を含み、既存知見と論理的整合性がある根拠をもち、既存理論に新しい視点を加える独創性をもちつつ、今後検証可能な理論構造をもつことが求められている。また、文章としても散文ではなく学術的・論理的で医学的倫理にもかなった社会的な有用性をもつことが大切である。

前述のプルシナーのノーベル賞受賞講演では、その講演の過半はプリオン病に関する多くの研究者の貢献について述べられていた。また、壇上には多くの共同研究者が並んで座っており、限られた時間で一人ひとりの寄与についても紹介されたが、仮説が検証される過程で多くの研究者の寄与があったことが実感された。過去の知見の集積の上に立つことは、「巨人の肩の上に立つ(Stand on the shoulders of giants : Google Scholar)」という表現が連想されるが、過去の知見の上に立つものとしての仮説もあるが、その場合の仮説はさまざまな意味で筋の通ったものが望まれると思う<sup>2)</sup>。

現代の精神医学が“科学化”され、医学の一分野としてその水準を高めて医学や医療の進歩に寄与することは重要である。一方で本誌が記述精神医学に属する分野でも仮説的な内容を含む有意義な論考を発表する場として用いられることもわが国の精神医学において大切な側面であると思われる。先達の業績や先行研究などの積み重ねの上に新しい知の地平線が開かれることを期待したい。

1) Prusiner, S. B. : Novel proteinaceous infectious particles cause scrapie. *Science*, 216 (4542) : 136-144, 1982

2) Ghasemi, A., Hosseinpanah, F., Kashfi, K., et al. : Research hypothesis : a brief history, central role in scientific inquiry, and characteristics. *Addict Health*, 17 : 1623, 2025

谷井久志